

地域環境学コース

地域環境学コース（通称ちいかん）は、地形・災害・景観・文化・社会・ジェンダー・経済・生活など、地域の諸問題について、奈良県内、日本国内、外国などを対象に、多様な空間スケールで研究できるコースです。4名の教員（高田将志教授、吉田容子教授、西村雄一郎准教授、浅田晴久准教授）の指導の下で、自然地理学、人文地理学、環境社会学の3つの分野の勉強／研究ができます。

自然地理学を学ぶことで、地形、地質、気象、動物、植生、さらには過去の環境を知ることができます。文学部では珍しい実験室を利用して、自然界の謎を解明します。

人文地理学では、都市、社会、ジェンダー、生活空間／時間など、身のまわりで起こっているできごとを今までとは違う視点から解明します。GIS・GPSなどコンピューターで分析するスキルも習得できます。

環境社会学の理論では、現代社会の課題や環境との付き合い方を考えます。公園の自然管理、ごみリサイクルといった身近な問題から、ダム建設、地球温暖化といった世界の社会問題まで扱います。

ここが魅力

「自分の目で見て確かめる」ことを重視する「ちいかん」の授業では、教室での講義だけでなく、地域の「現場」を訪れる機会も豊富に用意されています。これまで、長野県伊那市、鳥取県大山、大阪市鶴橋コリアタウン、大阪市西成区、石切神社周辺、平城ニュータウン、サントリー山崎蒸留所、大阪市大正区、神戸市インド寺院、奈良市田原地区、大台ヶ原などに出かけました。

自分ではあまり行けない場所へ出かけたり、普段何気なく見ているものを、学術的な視点でとらえる見方を学ぶことで、視野が大きく広がります。在学中に身につけた、思考力・分析力・行動力は、社会に出てからも役立ちます。

こんな授業が

3年次前期の必修科目である「地域環境学巡検」では、日頃の授業で培った、地理学・社会学の調査方法、フィールドワークの手法、地形図や空中写真の分析や計測機器を活用する知識を生かして、多様な視点から地域を調査する実習を約1週間かけて行います。

2019年度は沖縄（沖縄本島）を巡り、カルスト地形、マングローブ林、基地周辺飲食街、琉球王朝の遺構などを見学しました。参加学生は、湧水利用、気候景観、泡盛生産など、各自でテーマを定めて現地調査を行いました。

学生の声

「ちいかん」では、地域に関わるさまざまな問題について、実際に現地に出かけて調査し、その地域がもつ魅力や課題を知ることが出来ます。初めて訪れる場所や地域の人との出会いや、調査を通じて自分の視野を広げることが出来ることも「ちいかん」の魅力です。高校時代に地理や現代社会を選択していなくても、授業で基礎から学ぶことができるので、ぜひ講義や実習に参加してみてください。また、アットホームなコースで、教員・先輩・後輩の距離が近く、勉強方法や日常生活のちょっとした困りごとでも気軽に相談できます。私たちと一緒に「ちいかん」で、地域の魅力を見つけましょう！

（2019年卒業・Wさん）

最近の卒業論文のテーマ

（自然地理学分野）

- 奈良盆地における神社林の植生と動態
- 瀬戸市における戦後の地形改変
- 天井川流域における山地植生の変遷
- 新潟県における人身雪害の推移とその地域的特性

（人文地理学分野）

- 奈良県南和医療圏の再編と住民の受療行動
- 八尾市におけるベトナム人の定住プロセス
- 高野山の宗教ツーリズムにみる宿坊の役割
- 漬物産業の原料調達変容とグローバル化

（環境社会学分野）

- 奈良県におけるごみリサイクルの地域差
- 生駒市における街区公園の利用特性
- 海洋リテラシーの普及に果たす水族館の役割

卒業生の主な進路

地方公務員

奈良県、大阪府、富山県、愛知県、大阪市、京都市、宇治市、八尾市、桜井市など

民間企業

ゼンリン、国際航業、JTB 西日本、阪急交通社、大阪ガス、NHK、西日本新聞社など

大学院進学

奈良女子大学、京都大学、広島大学、名古屋大学、筑波大学、大阪市立大学など

コース HP

<http://www.nara-wu.ac.jp/bungaku/sges/index.html>